

静岡松涛タイムス 第57号

発行元：静岡県本部広報部 責任者：滝田宏平
 連絡先：0547-36-1238(TEL) 0547-36-1293(FAX)
 E-mail：kouheichan@tiara.ocn.ne.jp
 URL：http://www.shizuoka-karate.com/ (公式 HP)
 http://www4.tokai.or.jp/sougou/ (広報部)

Photo：梅にうぐいす

静岡県本部主催技術講習会



立春を過ぎ、暦の上では春となりましたが、まだまだ厳しい寒さが続いております。大陸からの第1級の寒波が列島を包み込んだ2月5日(日)に静岡市郊外の静岡北部体育館にて、県本部主催技術講習会が行われました。定刻の10時に開始となりましたが、1時間以上前に来てストレッチ等のウォーミングアップを行なっているメンバーも多く見られました。

松涛連盟の代名詞ともいえる車椅子空手も、会を重ねるたびに参加者の技術レベルも向上し、今回は基本や形に続き「組手」を取り入れる事となりました。松永賢師範を中心に講義が進められましたが、師範より「車椅子の操車はもちろんです。技も障害を持たれた方の目線で考えなければなりません」と指導がありました。別室では参加者がクラス別に分かれ、これから黒帯に挑戦する茶帯を対象にしたクラスや式段を目指すクラス等、幅広いメンバーを対象に講習会が開催され、有意義な1日となりました。このような積み重ねが今後県全体の技術力強化を図る事に極めて有効な手段となります。今後も更に大勢の会員に参加していただく事を願います。(広報部：秋山高士)

平成23年度3月期昇段審査会合格者

| | | | | |
|--------------|------------|--------------|------------|------------|
| 少年部初段 | 堀田つばめ(駿河) | 山野井洸太(清水) | 川村 杏(静岡北) | 小島 瑛司(麻機) |
| 鈴木 丈勝(島田) | 中山 遥稀(清水) | 春寄 唯斗(清水) | 川口 詩織(清水) | 川井 幸也(川根) |
| 山本 芽衣(川根) | 熊本 桜子(島田) | 鈴木 颯斗(精誠館) | 山田 陸翔(静岡西) | 菊池 雄介(律誠館) |
| 川口 凌雅(静岡西) | 荻原唯梨華(静岡東) | 荻原麻梨華(静岡東) | 小島わかかな(麻機) | 伊藤 雅都(将陽館) |
| 堀田明日人(駿河) | 大野 雄生(精誠館) | 久保田蓮太(静岡北) | 杉浦 奎吾(島田) | 岩崎 歩音(麻機) |
| 玉手 将大(静岡西) | 赤堀 瑞季(駿河) | 吉田 瑞希(律誠館) | 伊藤 芽生(将陽館) | 杉本 里名(川根) |
| 鈴木 美夕(西焼津) | 鈴木 大和(西焼津) | 野中 魁人(静岡南) | 鈴木 慈人(島田) | 桑原 哲平(焼津) |
| 風間かほり(静岡西) | 杉山 紗菜(静岡西) | 成岡 未来(静岡西) | 谷内村早希(清水南) | 岡村 琢巳(清水南) |
| 村松 春佳(清水) | 菅原 遥(高洲) | 竹下 真央(瀬戸谷) | 鈴木 陽大(西焼津) | 村田 有弥(高洲) |
| 増井 一樹(精誠館) | 村田 圭吾(高洲) | 一般部初段 | 井川 雅子(清水) | |

平成24年3月11日実施 於 静岡市北部体育館 受審者総数52名 合格者47名

第12回松永杯水上杯争奪戦静岡市空手道大会



松永杯・水上杯争奪戦が3月25日(日)に静岡市北部体育館で開催された。本大会も今回で12回目を数え、組手の勝者団体に授与される松永杯、型の勝者団体に授与される水上杯は両師範の誉れとともに歴史を刻んでいる。昨年は烈士館が両杯を独占したが、今年は松永杯優勝が〔いさみ道場〕、準優勝が〔安倍川支部〕、3位に〔春風館〕、水上杯優勝が〔烈士館〕、準優勝が〔春風館〕、3位に〔いさみ道場〕が上位に名を連ねた。激しい競技の合間に行われた曾我康博、木村嘉高、両指導員の演武も素晴らしく、総本部道場にも引けを取らないレベルの高さを見せ、観衆を唸ら

ました。激しい競技の合間に行われた曾我康博、木村嘉高、両指導員の演武も素晴らしく、総本部道場にも引けを取らないレベルの高さを見せ、観衆を唸ら

せていた。この大会は学年によっては帯の色でカテゴリーを編成し、低学年には敢闘賞を授与等、初心者でも参加し易い大会になっている。また、個人で賞を狙うだけでなく、皆で松永杯・水上杯を目指すという団体競技的な雰囲気もある。静岡市の大会でありながら、176名の参加があり、そのうち幼年だけで22名ものエントリーがあったのは今後の楽しみでもある。一方で大会を支えて下さるボランティアの皆さんには本当に頭が下がる。殆どが、自分の子供の活躍を見たいのを我慢して、裏方に徹する親御様。採点、呼び出し、時計係り、記録等々、初めてやるような作業を待たなしてこなしていく。賞状に一枚一枚、丁寧に筆を運ぶお母様も本当に有り難い。後ろで支えてくれる方々がいて、大会が成り立っていることを改めて胸に刻んだ一日でもありました。ボランティアの皆様、いつも大会をサポートしていただきまして本当に有難う御座います。今後とも宜しくお願いします！（レポート：遠山貴志 春風館）

第8回やまびこ杯争奪空手道大会



まだまだ寒い日が続く早春の川根路、川根本町立中川根中学校体育館にて、3月18日(日)川根支部主催の「第8回やまびこ杯争奪空手道大会」が盛大に開催されました。回を重ねるごとに参加道場も増えて、今年は川根支部に加え、安倍川支部と虎琉館、颯志館桜道場、颯志館御前崎、新風館、磐田松涛館、剛柔館相良と県連で活躍中の友好道場

の合計8道場が参加し、幼年から大人まで約140名が熱戦を繰り広げました。やまびこ杯と銘打ったこの大会は、選手の気迫や仲間の応援が周りの山々にこだまし、過疎化が進む町全体が元気になるのを願って始まったのがきっかけです。午前中は型の試合を行いました。ルールは自由型とし、同じ型を何回打ってもよしという事で、一つの型で決勝まで行く選手もいれば、型をその都度変える選手もいて、様々でした。午後は川根支部中学生による演武「バツサイ大」の分解を行いました。中学生とは思えない迫力ある演武に、会場の皆さんの目は釘付けでした。次に、川根支部の稽古で取り入れている「カラテビクス」を行いました。これは、上中師範が考案した空手とエアロビクスを融合したもので、音楽に合わせながら空手の基本的な動作を行います。これを会場の皆さんで楽しく行いました。参加した道場で、ぜひうちの稽古にも取り入れたい。と言う声があり、大変好評でした。その後、組手の試合で、自由組手を行いました。どの層でも道場の威信をかけ白熱した戦いが繰り広げられました。また、他流派の選手もレベルが高く、川根支部・安倍川支部の生徒も大変勉強になったと思います。そして、やまびこ杯と言えば、応援です。道場ごとにチームとして戦うのですが、素晴らしい応援をしたチームには「応援ポイント」が与えられます。この応援ポイントはそれによって、優勝が決まってしまうと言っても過言ではないくらいに重要なポイントです。どの道場も応援が素晴らしく、大会が大いに盛り上がりました。私は、審判として参加しましたが、特に型の試合では、他流派の型も見ることができ、大変勉強になりました。また、各道場チーム一丸となり応援する姿を見て微笑ましいものを感じました。そして、選手や審判団、ご父兄の皆様のおかげで今年も大いに盛り上がり素晴らしい大会になりました。大会は総合力に勝る剛柔館相良がやまびこ杯を勝ち取りました。（レポート：鈴木雄一郎 川根支部）

県本部主催指定選手強化練習・審判講習会



4月15日(日)に静岡市郊外の静岡北部体育館にて、指定選手による強化練習が行われた。3年目を迎えた指定選手制は、前年の県大会上位3位以上入賞の選手のみによって構成され、当然東海・全国でも上位を狙えるトップ集団である。オープン参加の通常の講習会とは技術レベルはもちろんの事、気迫や雰囲気もガラリと変わるのを誰もが感じる事ができた。形・組手共に実戦形式にて進行され、指導陣の指導にも熱いものがあった。その実戦形式を利用して審判講習会が並行して行われた。判定の基準及びポイントが、審判部長の佐藤精司師範より細かく説明され、参加した指導員の中には熱心にメモを取る姿も見受けられた。組手においては、年々スピード化しており、それに対応した技の見極めについて、特に試合中の選手の安全確保については重点的に指導があった。危険な技や無防備への対応は、徹底した解説があり、来月開催される県大会では一味違ったレフェリングやジャッジが期待される。講習会の最後に佐藤審判部長・稲毛隆県本部長より、もっと大勢の大会審判員の派遣と審判講習への参加の要請があった。選手同様、審判員も技術レベル向上の為、県内各支部に所属する指導員の、今以上の参加が今後に於いて絶対的に必要である。